

## 地方会参加者についてのアンケート 調査

岩谷宏一 (島根)・竹崎 尋 (島根)

### 要旨

キーワード :

### 1. はじめに

現在まで、アドラー心理学学習者については過去に様々な調査研究が行われている。

- 総会参加者について  
中島弘徳(1991) : アドレリアンの性格傾向 -YG 性格検査と TEG による調査
- アドラー心理学治療者に関して  
中島弘徳(2003) : アドラー心理学治療者に関する基礎的調査
- 地方会参加者について  
中島弘徳・尾中孝司(2005) : アドラー心理学はどのように理解されているか
- 講座・講習会参加者について  
河野直子(2007) : 自助グループに関する意識調査 - 講座・講習会参加者を対象に
- アドラー心理学を学んだ教育関係者について  
山本卓也(2009) : アドラー心理学を学ぶ教育関係者の現状

このうち、地方会参加者を対象とした調査研究には中島・尾中(2005)<sup>[1]</sup>があるが、研究の目的がアドラー心理学の理解の特徴となっている。また四国地方会という限定的な範囲での調査となっている。

今回、我々は 2009 年に実施された全国 4 つの地方会への参加者についてアンケート調査を実施した。このことにより全国的各地方会ごとの地方会参加者のニーズや特徴を明らかにし、今後の地方会運営を行う上でどのような工夫が求められるのか考察したい。

### 2. 調査方法

各地方会の参加者にアンケート用紙を配布し、当日の地方会終了までに記入してもらった。なお、各地方会参加者アンケート回答者数および各地方会の開催状況は以下のとおりである。

合計回答数 212 名  
(複数地方会参加者含む)

1 東日本地方会（第12回）

（2009. 7. 5開催） 67名回答

場所：ウィリング横浜（神奈川県横浜市）

主な実施内容：

ゆっくり・じっくり・しっかり

「4Cワーク」

教育講演「勇気づけ」

演者：重信京美

ディスカッション

みんなで考えよう！ こんな時はどうする？

「動かないのはなぜ」を一緒に考えよう。

1 近畿地方会（第16回）

（2009. 6. 7開催） 63名回答

場所：御堂会館（大阪府大阪市）

主な実施内容：

教育講演1. 「勇気づけ」

演者：本郷仁視

教育講演2. 「子どもの話をきく」

演者：河野直子

ミニシンポジウム

ーアドラー心理学を地域でひろめるー

ワーク

「私の力をどう使う？ アドラーの仲間を増やすために。」

1 中国地方会（第6回）

（2009. 5. 31開催） 51名回答

場所：岡山コンベンションセンター

（岡山県岡山市）

主な実施内容：

グループワーク I

「エピソードを尋ねる～不思議がってていねいに～」

グループワーク II

「I should be を聴く～違うっておもしろい～」

1 四国地方会（第11回）

（2009. 6. 28開催） 31名回答

場所：徳島市ふれあい健康館

（徳島県徳島市）

主な実施内容：

ワーク「non-competitive games」

シンポジウム「老いる力」

日本アドラー心理学会 地方会についてのアンケート

性別: 男・女                      年齢:        歳        お住まいの都道府県:  
学歴:(            博士・            修士・            学士・その他(                      ))  
資格:( 医師・ 看護師・ 精神保健福祉士・ 臨床心理士・ 教員・ その他(                      ))  
アドラー心理学会認定資格:( 家族コンサルタント・ カウンセラー・ 心理療法士・ 指導者・ なし)  
親子関係リーダー資格:( スマイルリーダー・ パセージリーダー・ もっていない)  
臨床経験:        年

質問1: あなたがアドラー心理学を知ったのは何年前ですか。  
( 1: 0 から 5 年, 2: 6 から 10 年, 3: 11 から 15 年, 4: 16 年以前)

質問2: あなたがアドラー心理学を学ぼうと思った動機は何ですか。

質問3: アドラー心理学がもっとも役立っている(役立ちそうな)のはどの領域ですか。  
( 仕事・ 交友・ 家庭・ 自分自身・  
その他(                      ))

質問4: アドラー心理学をどこで使っています(使う予定です)か。  
( 仕事・ 交友・ 家庭・ どこでも使っている・ 使う予定はない・  
その他(                      ))

質問5: アドラー心理学の自助グループに参加していますか。  
( はい(お世話役・メンバー)    いいえ)

質問6: 日本アドラー心理学会に入会したきっかけは何ですか。

質問7: アドラー心理学のどのような点に惹かれましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。  
( わかりやすい・ 対人関係がよくなった・ 人間の心についての疑問が氷解した  
・ 友だちができた・ 理論的である・ 実践的である・ 講師がよい・ 試験がない  
その他(                      ) )

質問8: 今回の地方会参加のきっかけは何ですか。

質問9: 今までに近畿地方会に参加したことはありますか。  
( はい(回数:        回)・ いいえ)

「はい」とこたえた方  
過去に参加した地方会での学びはあなたの現在の生活のどういった場で、  
どのように役に立っていますか。

質問 10: 今までに他の地域で開催された日本アドラー心理学会地方会に参加したことはありますか。  
( はい(                      地方会)    ・ いいえ)

質問 11: 今後、近畿地方会で実施してほしい内容、近畿地方会に希望することは何ですか。  
内容:  
希望すること:

質問 12:「アドラー心理学といえば○○」  
\*○○の部分について、自由にお考えいただき、思いついた単語・文を記してください  
(いくつでもけっこうです)。

以上、ご協力ありがとうございました。

### 3. アンケート 内容

今回使用したアンケート用紙は「アドラー心理学治療者に関する基礎的調査」中島弘徳(2003)<sup>[2]</sup>で使用した調査用紙をもとにし、「アドラー心理学はどのように理解されているか」中島弘徳・尾中孝司(2005)<sup>[1]</sup>、第6回中国地方会中国地方会運営スタッフからいただいた意見を参考に作成しました。

### 4. 結果

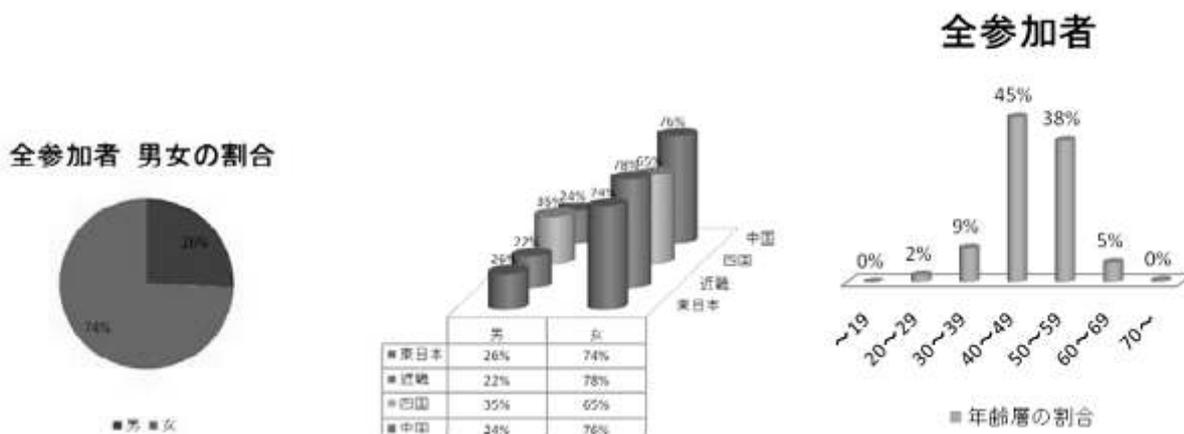


図1. 参加者の男女構成 (全参加者)

図2. 参加者の男女構成 (地方会ごと)

図3. 参加者の年齢 (全参加者)

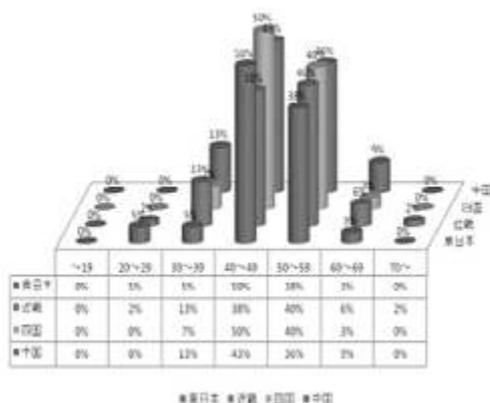


図4. 参加者の年齢 (各地方会)

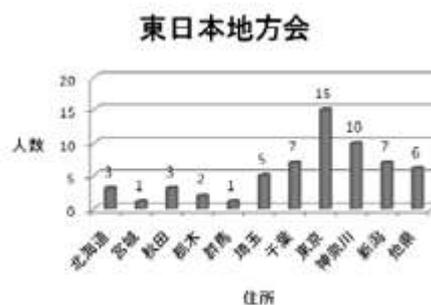


図5. 参加者の居住地 (東日本地方会)

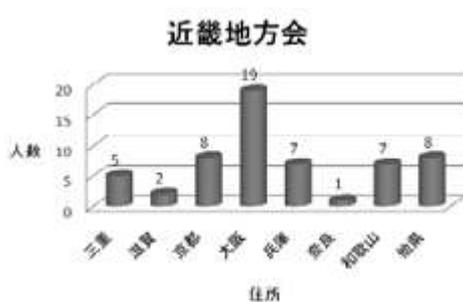


図6. 参加者の居住地 (近畿地方会)

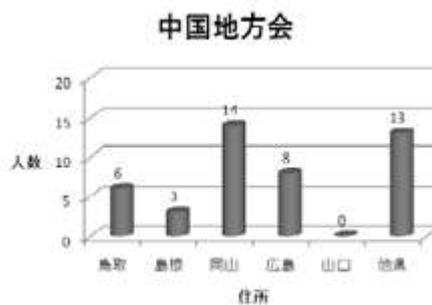


図7. 参加者の居住地 (中国地方会)

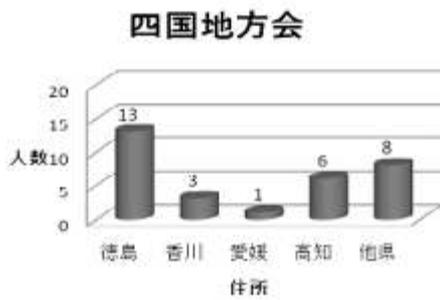


図 8. 参加者の居住地 (四国地方会)

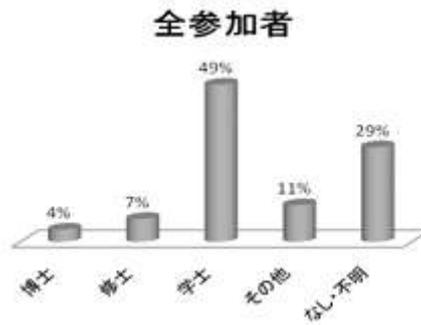


図 9. 参加者の学歴 (全参加者)

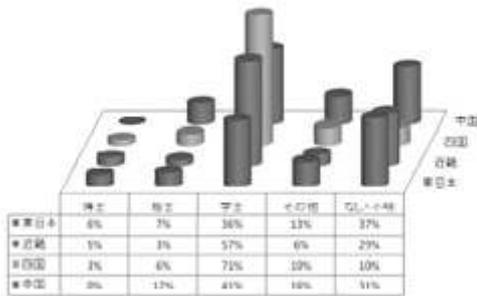


図 10. 参加者の学歴 (各地方会)

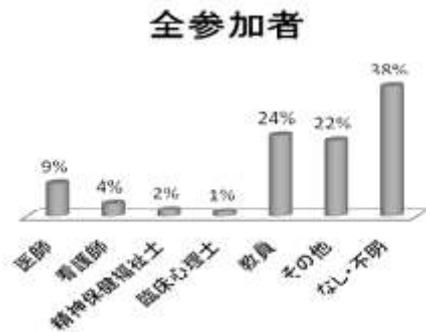


図 11. 資格所持者の割合 (全参加者)

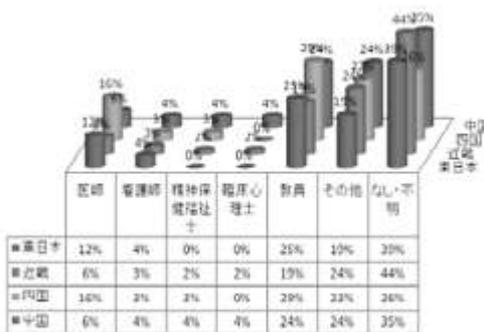


図 12. 資格所持者の割合 (各地方会)

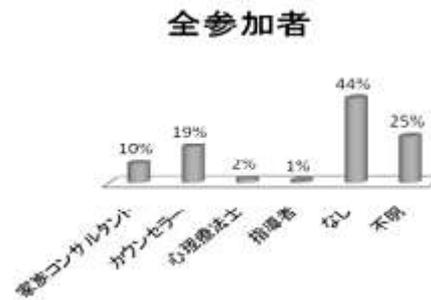


図 13. 認定資格者の割合 (全参加者)

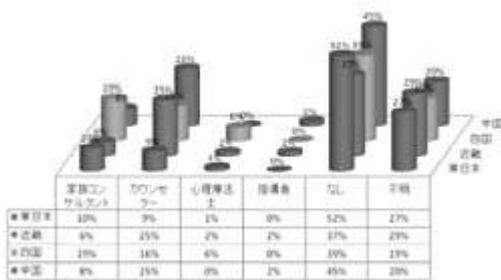


図 14. 認定資格者の割合 (各地方会)

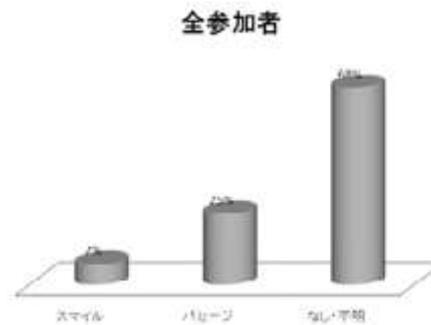


図 15. 親子関係リーダー資格者の割合 (全参加者)

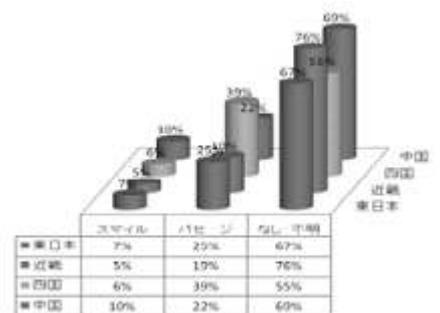


図 16. 親子関係リーダー資格者の割合 (各地方会)

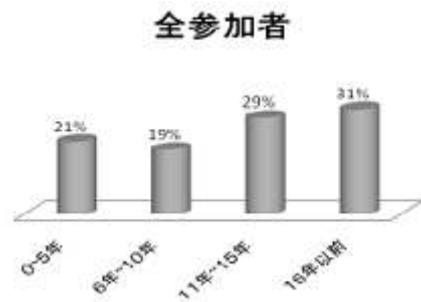


図 17. アドラー心理学を知った時期 (全参加者)

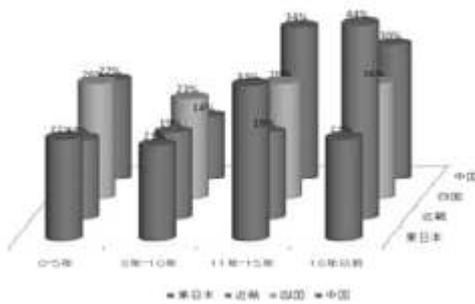


図 18. アドラー心理学を知った時期 (各地方会)

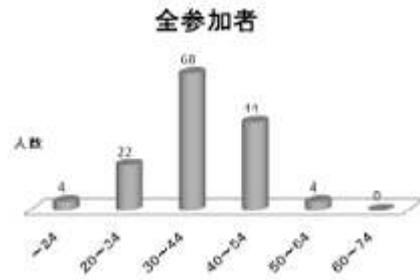


図 19. アドラー心理学に出会ったときの年齢 (全参加者)

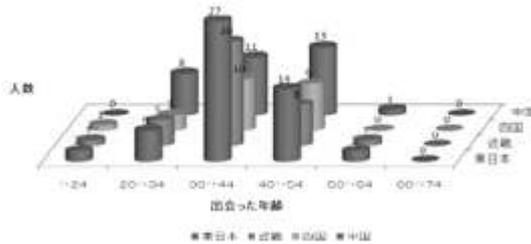


図 20. アドラー心理学に出会ったときの年齢 (各地方会)

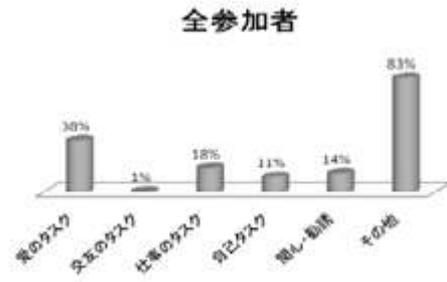


図 21. アドラー心理学を学ぼうと思った動機 (全参加者)

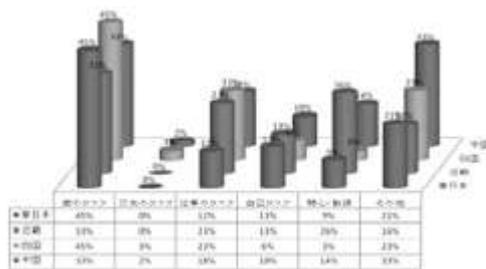


図 22. アドラー心理学を学ぼうと思った動機 (各地方会)

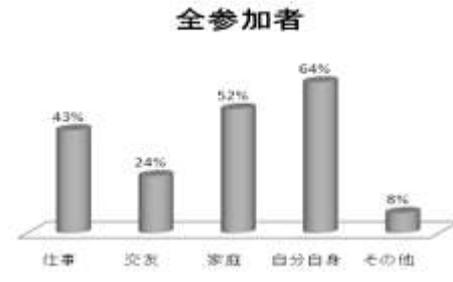


図 23. アドラー心理学が役立っている場 (全参加者)

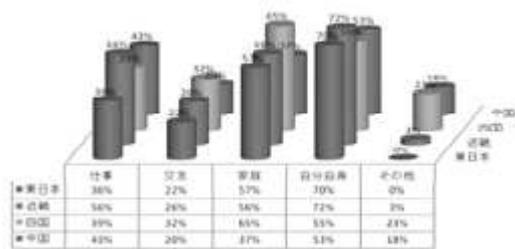


図 24. アドラー心理学が役立っている場 (各地方会)

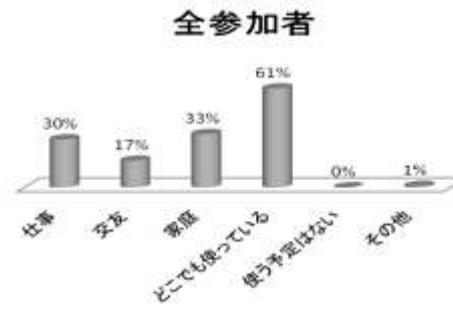


図 25. アドラー心理学を使っている場 (全参加者)

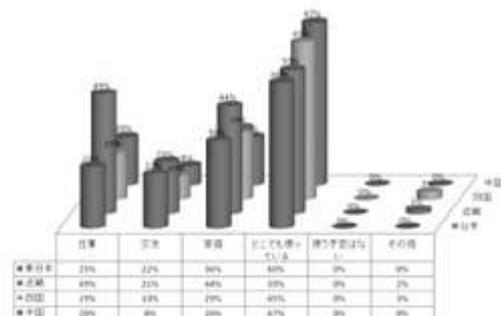


図 26. アドラー心理学を使っている場 (各地方会)

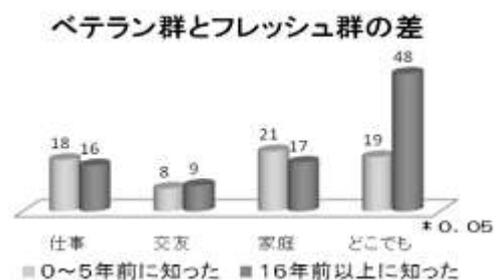


図 27. アドラー心理学を使っている場 (ベテラン群とフレッシュ群の比較)

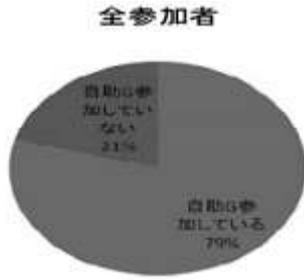


図 28. 自助グループへの参加（全参加者）

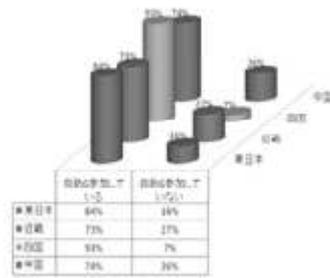


図 29. 自助グループへの参加（各地方会）

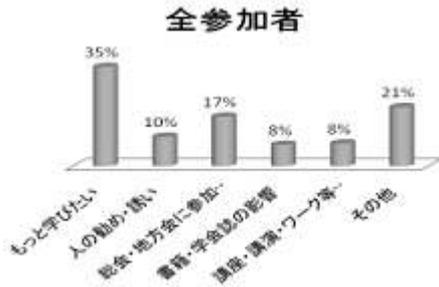


図 30. アドラー心理学会に入会したきっかけ（全参加者）

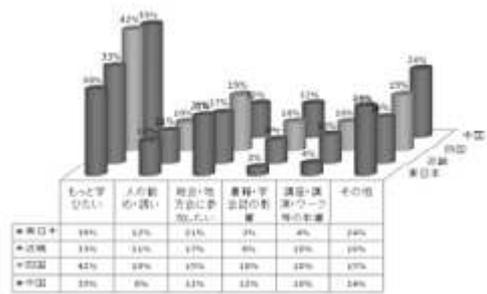


図 31. アドラー心理学会に入会したきっかけ（各地方会）

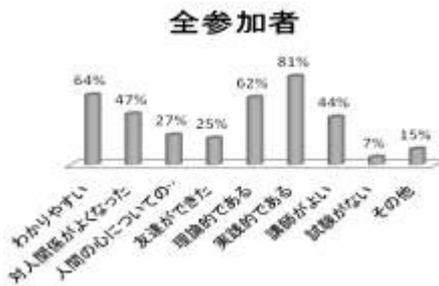


図 32. アドラー心理学の魅力（全参加者）

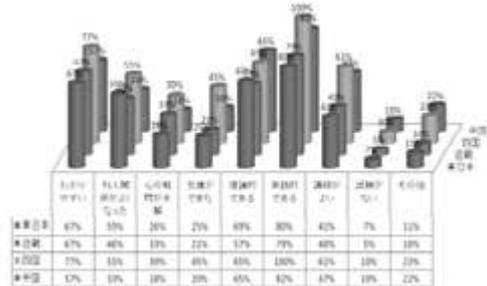


図 33. アドラー心理学の魅力（各地方会）

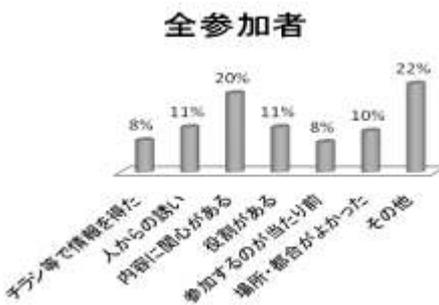


図 34. 地方会参加のきっかけ（全参加者）

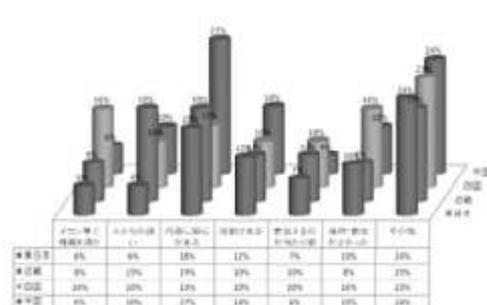


図 35. 地方会参加のきっかけ（各地方会）

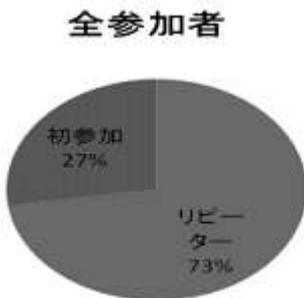


図 36. 地方会リピート参加割合（全参加者）

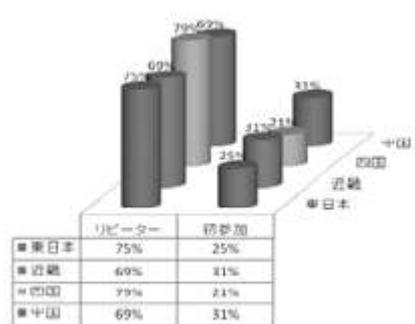


図 37. 地方会リピート参加割合（各地方会）

他地方会の参加

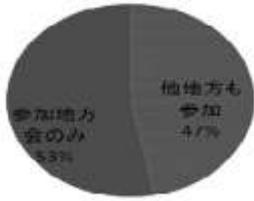


図 38. リピーターの他地方会参加割合 (全参加者)

リピーターの参加回数

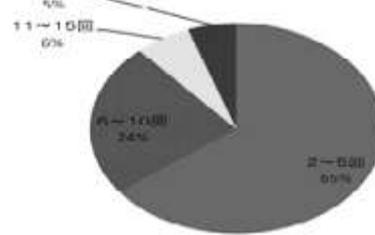


図 39. リピーターの地方参加回数 (各地方会)

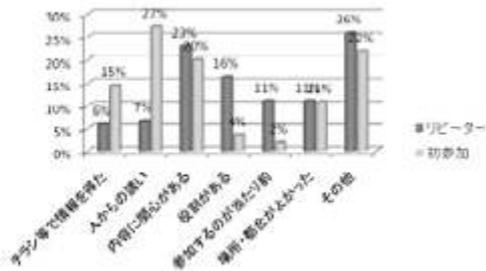


図 40. リピーターと初参加者の比較 (全参加者)

全参加者

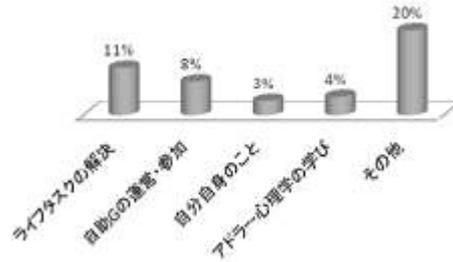


図 41. 地方会が役立っている場 (全参加者)

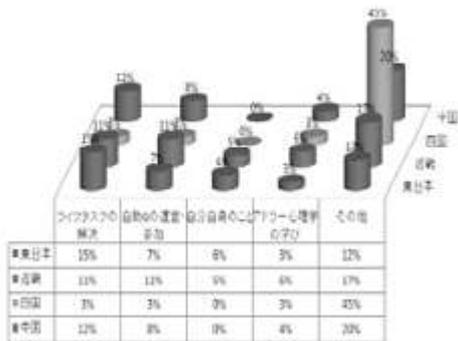


図 42. 地方会が役立っている場 (各地方会)

全参加者

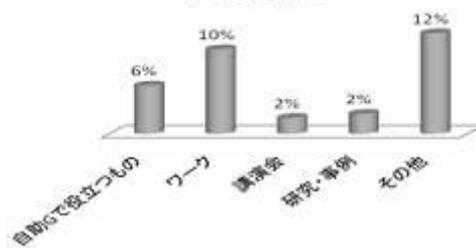


図 43. 地方会で実施してほしい内容 (全参加者)

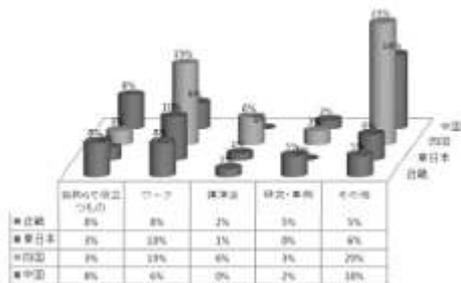


図 44. 地方会で実施してほしい内容 (各地方会)

全参加者

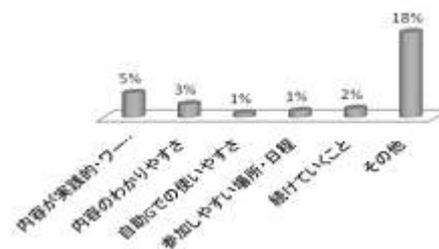


図 45. 地方会に希望すること (全参加者)



図 46. 地方会に希望すること (各地方会)

\*各地方会間の比較は実施内容等異なるため困難です。

\*図 21 「その他」の内容

- 人間関係をよくしたかった。
- 野田先生の講演、トーキングセミナーから。
- 知っている人が実践していた。
- わかりやすく、シンプルだったから。

\*図 30 「その他」の内容

- 家族が入会していたから。
- いろいろな人との出会いが期待できるから。
- アドラー心理学ムーブメント・活動へ参加するため。
- おもしろそうだから、おもしろい人がいると聞いたから。

\*図 43 「その他」の内容

- 勇気づけの実践
- 時代に合った新しい話題と基本的な思想・理論
- シンポジウム
- 成長した子ども、思春期の子どもとのつきあい方
- 他地方会、自助グループを知る機会

\*図 45 「その他」の内容

「その他」の内容

- 会員の学んでみたいことを集めて企画してほしい。
- 実践が共有できるような内容、皆が参加していると思える内容。
- 顔見知りも多い中でリラックスして仲間と学ぶ機会にしたい。
- 若い方にアドラー心理学を知ってもらおう機会になってほしい。
- 役をしてくださった方が、「来年もしたいなー」と思えるような長続きする運営。
- もう少しライフスタイルに関することを行ってほしい。
- 他の地区との合同開催をして人の交流を図る。

\*アンケート質問 12 についての分析結果については別途考察も含め報告したい。

## 5. 考察

アンケート調査結果について、

今回のアンケートは地方会に参加者について広範な調査を行っている。そこで、ここでは「参加者について」「参加者のアドラー心理学との関わりについて」「そして参加者の地方会との関わり」といった3つの視点から地方会参加者全般についてポイントをしばって考察してみたい。

また、後半では東日本、近畿、中国、四国の各地方会についてそれぞれの特徴を調査結果から得られた傾向から考察してみたい。なお、地方会間の参加者の比較は実施された内容等異なることから比較困難であることを付け加えたい。

## ①全参加者について

### 1) 参加者について

参加者の年齢について 40 歳から 49 歳が全体の 83 %を占める結果となっている。一つには、野田(2003)<sup>[3]</sup>が述べているように初期からアドラー心理学運動をしている方々が老齢化していることがあり、もう一つには合宿形式や連日研修ではないにしても若手のアドレリアンには参加しづらい現状があることが推察できる。

加えて、参加者の男女比がほぼ 3 : 7 であり、参加者の 60 %ほどが何らかの専門職で 40 %ほどが非専門職である。また 3 割ほどが学会有資格者である。これらのことから地方会参加者においても学界全体がアドラー心理学をムーブメントとして野田(2003)<sup>[3]</sup>が述べているとおり専門家と非専門家の学びの場となっていることが推察できる。さらに、アドラー心理学の学びが女性を中心として熟成してきていることが推察できる。

このことについては学会員の側からも、本学会が主婦も教師も企業家も専門家も同じ会員として機能していると木村(2000)<sup>[4]</sup>が述べている。

### 2) 参加者のアドラー心理学との関わりについて

アドラー心理学との出会いについて、データとして用いることのできる参加者について検討してみると、30 歳から 54 歳までがもっとも多い結果となっている。また、アドラー心理学を学ぼうと思った動機では「愛のタスク」に関するものが全体の 4 割ほどであることから参加者が自らの育児をはじめとする家族関係のことをきっかけにアドラー心理学を学び始めていることが推察できる。

アドラー心理学が役に立っていると思う場については、「自分自身」という回答が最も多かった。「自分自身」という選択肢がやや抽象的であるが、知識としてだけ保持するのではなく、アドラー心理学が実践的である側面を考えると、日常生活の対人関係上に何らかの役に立っている側面もあるのではないかと推測できる。

アドラー心理学を実際に使っている場については最も多かったのが「どこでも」という回答だった。この点については河野(2007)<sup>[5]</sup>、山本(2009)<sup>[6]</sup>の研究にもあるとおり、アドラー心理学の実践の場についての汎用性が高いことが考えられる。また、便宜的にアドラー心理学の学びを 5 年未満（フレッシュ群）と 16 年以上（ベテラン群）の 2 群に分けて比較検討した結果、ベテラン群の方がフレッシュ群よりも「どこでも」という回答が多かった。このことからアドラー心理学を学ぶ期間が長くなるにつれ、アドラー心理学を様々な場で使えるようになってきていることが推察できる。さらに、その他の回答については「家庭」「仕事」がそれぞれ 33 %、30 %となっている。それに対して「交友」が 17 %となっている。このことから基本的にはアドラー心理学を様々な場面で用いるがアドラー心理学の実践の場が「家庭」と「仕事」の 2 つの場に偏っている（実践の場が家か仕事かになっている）可能性も示唆されており、今後のアドラー心理学の活動を家族以外の身近な場で行うことによりアドラー心理学の広がる可能性があると考えられる。

アドラー心理学会入会のきっかけと学会の魅力についてはきっかけとしては「もっと学びたいから」が最も多く、参加者がアドラー心理学の継続的な学びかつ質の高い学びを求めていることが推察できる。またアドラー心理学の魅力としては「実践的」「理論的」「わかりやすい」といった項目についての回答が多い傾向を示した。これは山本(2009)が教員を対象にしたアンケート結果と同じ傾向であり、今回の結果とも合わせると、こうしたアドラー心理学の特徴が日常生活場面から専門的な臨床場面までさまざまな場面で役に立っていることが示唆される。

### 3) 地方会について

参加者の居住地は東日本地方以外、それぞれの地方会が開催された都府県からが多い。

地方会参加のきっかけは全体としては地方会の内容に関心があるとの回答が多く認められた。河野(2007)<sup>[4]</sup>の研究で明らかになった自助グループ参加のきっかけとして回答の多かったアドラー心理学の継続した学びの場の確保を併せて考えると、参加者は地方会に対してはアドラー心理学の学びの質を、自助グループに関してはアドラー心理学の継続した学びの場としてのニーズを求めていることも推察できる。

参加者はリピーター率が7割と高く、約50%が他地方会にも参加経験があることから、地方会に参加することは単発的な研修とは違った目的を持って参加していることも考えられる。

また、地方会参加者について、初回参加者とリピーターの参加のきっかけを比較すると、初回参加者は他者からの誘いによることも多いのに対し、リピーターには地方会運営の役割があるといった回答も多く認められた。このことと地方会参加者のリピーター比率が7割であることから、地方会参加者が参加を重ねるにつれ、地方会運営者側に移行していることも認められることが推察できる。つまり、地域の学会員が自らの力で地方会を運営していけるようなシステムができつつあると思われる。

地方会が役立っている場、地方会で実施してほしい内容、地方会に希望することについては様々な意見が回答されている。あえてあげるとすれば、地方会で実施してほしい内容について、ワーク実施希望が1割ほどあった。地方会については大枠として参加者のアドラー心理学の学びの質を高める内容がニーズとしてあると仮定すれば、ニーズの細かな内容については多様であるため、地方会を運営する側のスタッフにはその地方の学会員のニーズを把握しながらも参加者に対してアドラー心理学の学びの質を高める内容を考え、提案していく努力が必要と思われる。

## ②各地方会について

地方会間の比較は今回の調査では困難である。しかし、ここでは地方会ごとの参加者についての調査結果から、それぞれの地方会についての特徴を考察してみたい。

### 1) 東日本地方会

地方会開催場所は神奈川県であるが、東京からの参加者が最も多かった。参加者の中で認定資格所持者はカウンセラー、家族コンサルタントがそれぞれ10%ほどだった。心理療法士の参加も認められた。参加者の年齢は40代から50代が全体の89%だった。アドラー心理学の学びのキャリアは11年から15年が最も多かったが、0年から5年、6年から10年、16年以上の割合がそれぞれ20%前半代であった。また、地方会参加のきっかけは内容に関心をもったことが最も多く自助グループへの参加者が84%だった。地方会参加リピーターは7割以上であった。このことから、東日本地方会についてはベテラン参加者が自助グループ活動等とおして地方会開催を知らせたり、初心者からベテランまで学びの質を高めることができやすい内容が設定されていたことが推察できる。

### 2) 近畿地方会

地方会開催場所である大阪府からの参加者が最も多かった。参加者の中で認定資格者所持者はカウンセラーが25%、家族コンサルタントが6%、心理療法士、指導者の参加も認められた。参加者の年齢は40代から50代が全体の78%だった。参加者の44%がアドラー心理学の学びのキャリアが16年以上であった。参加者がアドラー心理学を使っている場として「どこでも」が最も多く、その次に「仕事」、「家庭」の順に多かった。地方会参加のきっかけは内容に関心をもったことと他者からの誘いが最も多く、自助グループへの参加者が73%だった。また地方会参加リピーターは69%だった。

これらのことから、近畿地方会はベテランの専門家とベテランの非専門家から構成されており、そうした参加者のニーズにこたえることのできる内容が実施されたことが推察できる。また、アドラー心理学の学びの長い人々がリピートして参加していることから、ムーヴメントとしてのアドラー心理学を続けてきた参加者が多く、地方会参加がアドラー心理学を実践していく上で当然のこととして捉えている参加者が多いことが考えられる。

### 3) 中国地方会

地方会開催場所の岡山県からの参加者が最も多かった。参加者の中で認定資格所持者はカウンセラーが 25 %、家族コンサルタントが 8 %、指導者の参加も認められた。参加者の年齢は 40 代から 50 代が全体の 79 % だった。アドラー心理学の学びのキャリアは 11 年から 15 年が最も多く 34 %、その次に 16 年以上が 30 % だった。地方会参加のきっかけは内容に関心を持ったことが多く、自助グループへの参加者が 74 % だった。地方会参加リピーターは 69 % だった。これらのことから、中国地方会についてはアドラー心理学の学びを継続しているベテラン参加者により、アドラー心理学の学びの質を高めることに重点をおいた会が開催されたと推察できる。

### 4) 四国地方会

地方会開催場所の徳島県からの参加者が最も多かった。参加者の中で認定資格所持者は家族コンサルタントが 19 % なのが特徴的である。親子関係リーダー資格についてはスマイルリーダー資格所持が 6 %、パッセージリーダー資格所持が 39 %、参加者の 40 % あまりの方が親子関係資格リーダーを所持している。参加者の年齢は 40 代から 50 代が全体の 90 % だった。アドラー心理学の学びのキャリアは 0 年から 5 年 6 年から 10 年、11 年から 15 年、16 年以上がそれぞれ 25 % 前後だった。自助グループへの参加者が 93 % だった。地方会参加リピーターは 79 % だった。

これらのことから、自助グループという地域での学習活動にコミットしている人々が、初心者からベテランまで幅広く学習していることが推測される。その自助グループの延長線上に地方会があるものとして参加者している人が多いことが考えられる。また、地方会参加をきっかけにして、単発参加で終わらず自助グループに繋げていけるように、地方会運営者がアドラー心理学を学ぶ線を作ってきていることが推察される。そのことから、地方会が機能している役割の一つとして、四国地方会の場合は自助グループ活動に携わる会員が交流を図ったり、情報交換しやすい場となっているのだろう。

## 6. 今後の課題

今回のアンケート調査にあたっては、中島(2003)<sup>[2]</sup>、中島・尾中(2005)<sup>[1]</sup>ベースとして作成した第 6 回中国地方会アンケート用紙を一部変更して用いた。今回のアンケート調査結果を集計する際、文で回答を要する項目について質問文のわかりにくさや、アンケート用紙への回答時間に配慮を要する点が認められた。今後、今回の調査をふまえ、短時間で回答でき、なおかつ質の高い情報を得ることができるような工夫が必要と思われる。

また、今回のような調査を今回だけでなく、継続的に行うことにより、日本アドラー心理学会会員の動向を知ることができ、地方会だけでなく自助グループ、学会全体の運営に役立つものと考えられる。

## 7. おわりに

本稿は 2009 年日本アドラー心理学会総会にて発表した内容に加筆修正を加えたものである。発表当日フロアからいただいたコメントなども参考にさせていただいた。

本研究を実施するにあたって、まずアンケートに回答いただいた地方会参加者の皆様にお礼申し上げたい。参加者の皆様のご理解、ご協力なくしてはこの研究は成り立たなかった。

次に田中会長をはじめ各地方会担当の理事の方々にもお礼申し上げたい。それぞれ地方会準備で忙しい中、時間をいただきご協力頂いただくことができた。

最後に中島弘徳指導者には研究当初から総会での発表、論文作成にわたってご助言ご指導をいただいた。この場をお借りして感謝の意をあらわしたい。

本研究が今後のアドラー心理学会の活動に少しでもお役に立てれば幸いである。

## 8. 参考引用文献

[1] 中島弘徳・尾中孝司：

アドラー心理学はどのように理解されているか

—第7回四国地方会アドラー心理学点検ワークより— アドレリアン 18 (2) : 265, 2005

[2] 中島弘徳：アドラー心理学治療者に関する基礎的調査

2003 年日本アドラー心理学会総会発表資料, 2003

[3] 野田俊作：日本アドラー心理学会 20 周年記念インタビュー —野田俊作指導者に聞く—

アドレリアン 17 (1) : 1, 2003

[4] 木村欣一郎：私の病気、そして共同体感覚など アドレリアン 14 (2) : 102, 2000

[5] 河野直子：自助グループに関する意識調査

—講座・講習会参加者を対象に— アドレリアン 21(1) : 11, 2007

[6] 山本卓也：アドラー心理学を学ぶ教育関係者の現状

アドレリアン 22 (3) : 249, 2009

[7] 小塩真司・西口利文 (編)：質問紙調査の手順. ナカニシヤ出版, 2007

[8] 内田治：すぐわかる Excel によるアンケートの調査・集計・解析 第2版. 東京図書, 2002

## 更新履歴

2013 年 5 月 1 日 アドレリアン掲載号より転載

全参加者 男女の割合

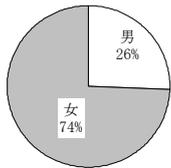


図1. 参加者の男女構成(全参加者)

全参加者

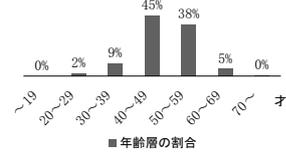


図3. 参加者の年齢(全参加者)

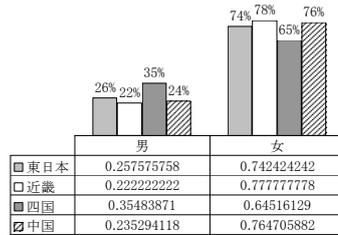


図2. 参加者の男女構成(地方会ごと)

東日本地方会

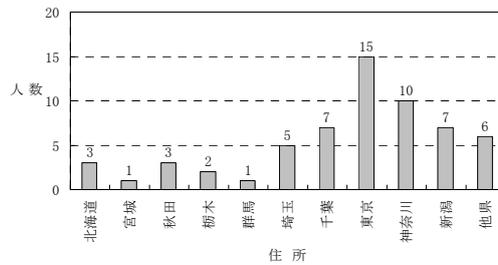


図5. 参加者の居住地(東日本地方会)

近畿地方会

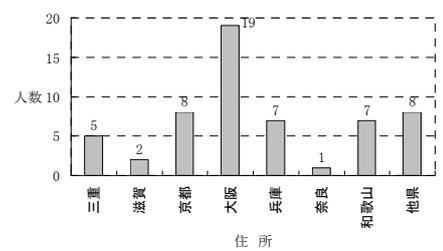


図6. 参加者の居住地(近畿地方会)

図4. 参加者の年齢(各地方会)

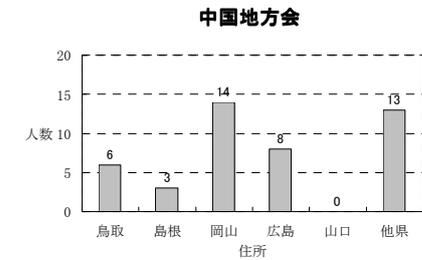


図7. 参加者の居住地(中国地方会)

四国地方会

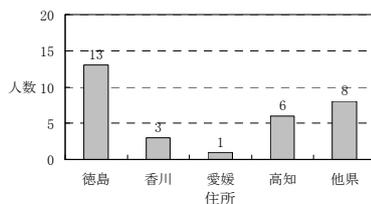


図8. 参加者の居住地(四国地方会)

全参加者

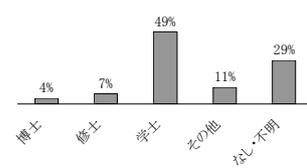


図9. 参加者の学歴(全参加者)

図10. 参加者の学歴(各地方会)

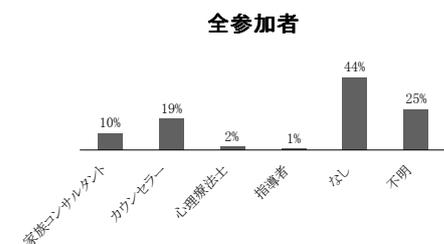


図13. 認定資格者の割合(全参加者)

図11. 資格所持者の割合(全参加者)

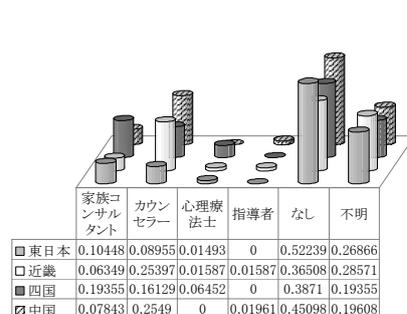


図14. 認定資格者の割合(各地方会)

図12. 資格所持者の割合(各地方会)

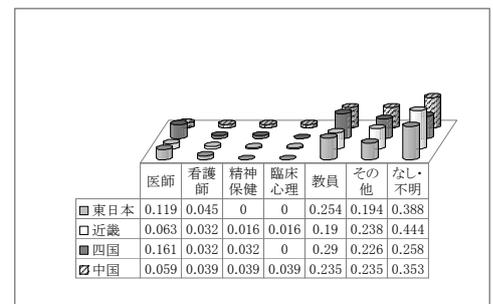


図15. 親子関係リーダー資格者の割合(全参加者)

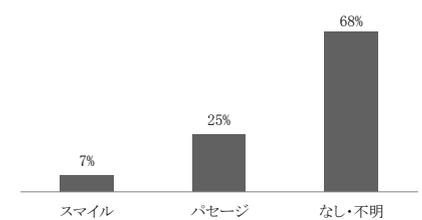
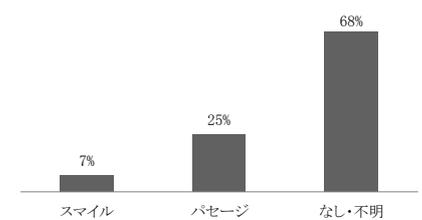


図15. 親子関係リーダー資格者の割合(全参加者)



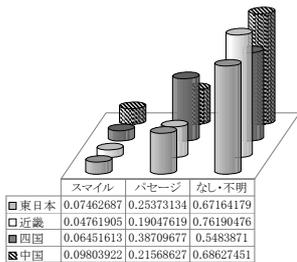


図16. 親子関係リーダー資格者の割合(各地方会)

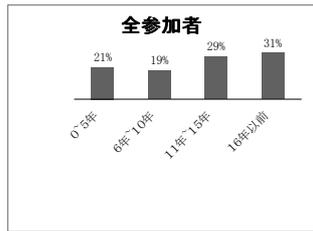


図17. アドラー心理学を知った時期(全参加者)

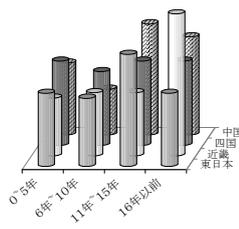


図18. アドラー心理学を知った時期(各地方会)

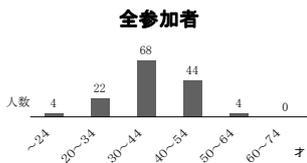
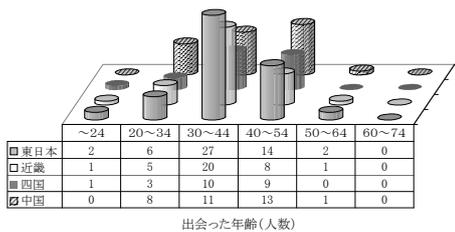


図19. アドラー心理学に出会ったときの年齢(全参加者)



出会った年齢(人数)

図20. アドラー心理学に出会ったときの年齢(各地方会)

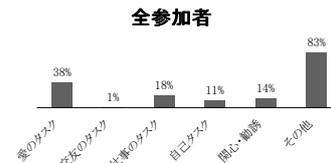


図21. アドラー心理学を学ぼうと思った動機(全参加者)

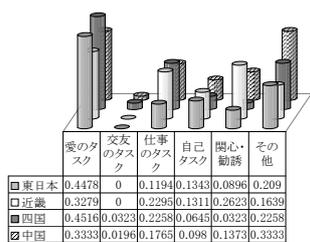


図22. アドラー心理学を学ぼうと思った動機(各地方会)

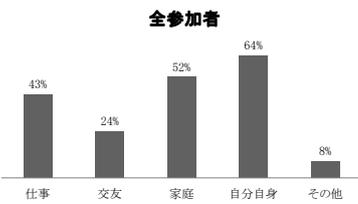


図23. アドラー心理学が役立っている場(全参加者)

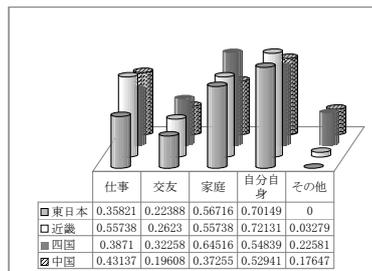


図24. アドラー心理学が役立っている場(各地方会)

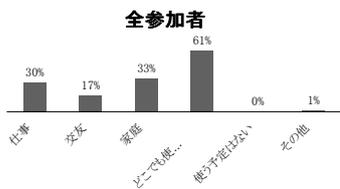


図25. アドラー心理学を使っている場(全参加者)

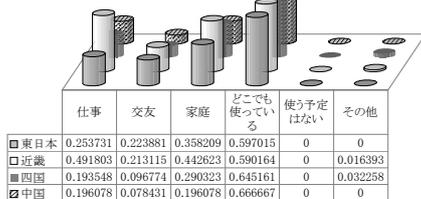


図26. アドラー心理学を使っている場(各地方会)

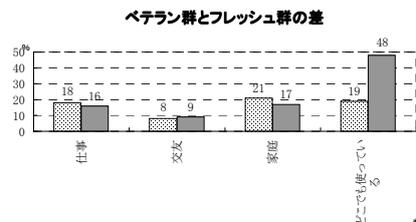


図27. アドラー心理学を使っている場(ベテラン群とフレッシュ群の比較)

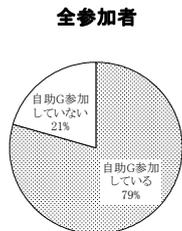


図28. 自助グループへの参加(全参加者)

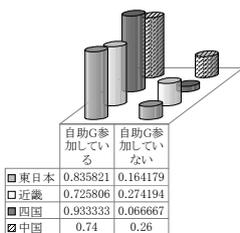


図29. 自助グループへの参加(各地方会)

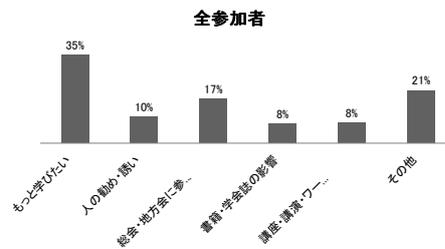


図30. アドラー心理学会に入会したきっかけ(全参加者)

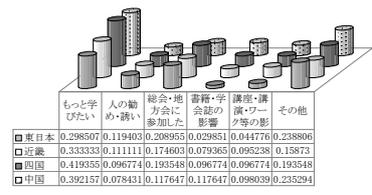


図31. アドラー心理学会に入会したきっかけ(各地方会)

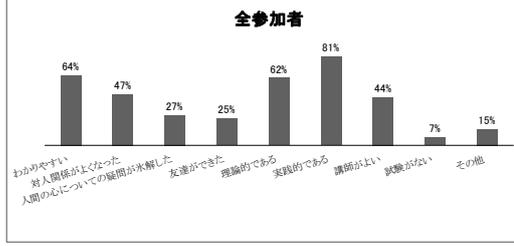


図32. アドラー心理学の魅力(全参加者)

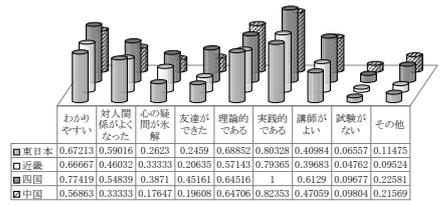


図33. アドラー心理学の魅力(各地方会)

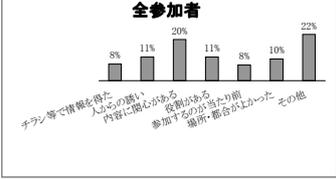


図34. 地方会参加のきっかけ(全参加者)

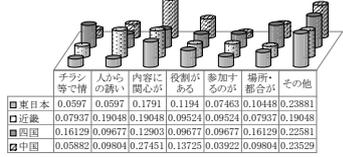


図35. 地方会参加のきっかけ(各地方会)

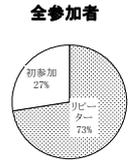


図36. 地方会リピーター参加割合(全参加者)

他地方会の参加

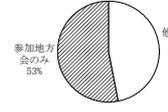


図38. リピーターの他地方会参加割合(全参加者)

リピーターの参加回数

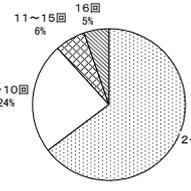


図39. リピーターの地方会参加回数(各地方会)

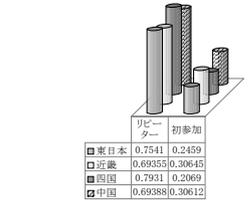


図37. 地方会リピーター参加割合(各地方会)

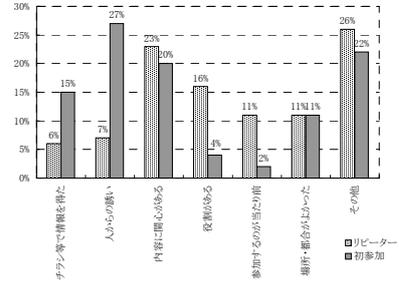


図40. リピーターと初参加者の比較(全参加者)

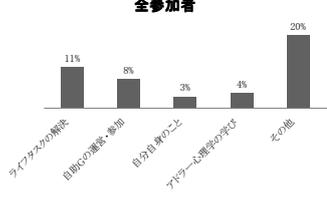


図41. 地方会が役立っている場(全参加者)

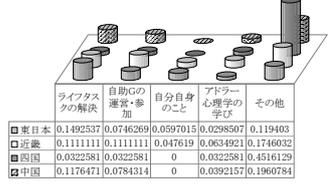


図42. 地方会が役立っている場(各地方会)

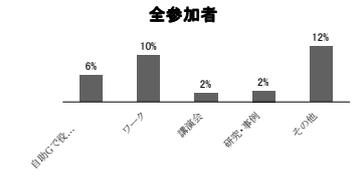


図43. 地方会で実施してほしい内容(全参加者)

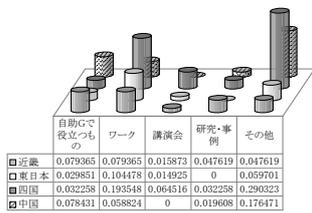


図44. 地方会で実施してほしい内容(各地方会)

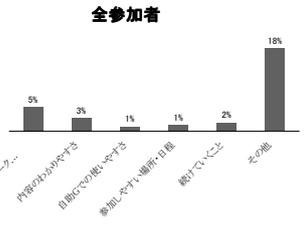


図45. 地方会に希望すること(全参加者)

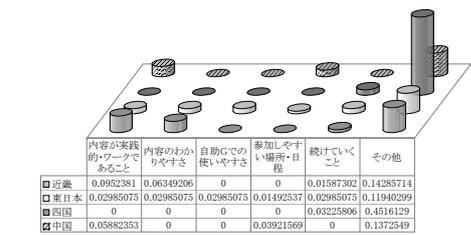


図46. 地方会に希望すること(各地方会)